

# JIS 青銅合金 鑄造用地金

JIS H2203 日本工業規格表示工場 製造元

## ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮2222-2  
電話 059-268-2206(代)  
FAX 059-268-1949

## ミカゲ金属株式会社

大阪本部  
大阪市中央区博労町3-6-7 三都ビル2階  
電話 06-6244-3115(代)  
FAX 06-6244-3116  
東大阪倉庫  
東大阪市長堂3-11-20  
電話 06-6782-3115(代)  
FAX 06-6782-3143

# 並銅・下銅 真鍮ダイヤ粉 アルミ・ステンレス

現金買入れ

# 新賀金属

八尾市太田新町7丁目24  
電話 072-949-9750  
FAX 072-949-9462

# 日刊メタルレポート

株式会社 日刊金属新聞社  
 発行人 小林恒甫  
 本社 大阪市城東区蒲生1-3-7  
 電話 (06) 6932-5443 代表  
 北陸支社 富山市曙町1-30-508号内  
 電話 (076) 444-6836  
 購読料 半年44,100円(前納) 3ヶ月22,050円

## 自動車など指標の悪化に伴い

アルミ輸出増・輸入減の様相も  
アルミ橋本健一郎氏レポート②



橋本健一郎氏

【概況】十月前半は八月の米個人消費が好調だったこと、日銀が円高への対応策として実質ゼロ金利を再開したことから更なる米金融緩和期待が台頭。さらに銅やアルミのETF(上場投資信託)設立のうわさから流動資金が流入。LMEアルミも二、四〇〇ドルと大幅上昇となった。後半は九月の米国CPI(消費者物価指数)の下落や予測外の中国の利上げを受け、米国金融緩和期待やETF期待による上昇が頭を抑えられる形に。またG20での為替安定声明をうけて要人からの米金融緩和に対する懸念コメントを受け、金融緩和の規模が縮小するのでは?との思惑がでるも十一月二日のFOMCで予想以上の金融緩和が決定。十一月四日現在、LMEセツル二、四〇〇ドルでスタートとなった。

### 【九月の経済指標】

#### ◆自動車生産台数

日本自動車工業会発表によると自動車生産台数は前月比三三・九%増の六九万〇、六八九台。

#### ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数は前月比三七・四%減の一九万〇、三二五八台。

## チリ・コジヤワシ銅山 ストが四日目に突入

### 操業は平常通りのままか

生産高世界第三位の銅鉱山、チリ・コジヤワシ銅鉱山でのストは八日、四日目に突入した。

会社側や非労働組合員は、組合員のストによる生産、出荷影響はないとしているが、一、五五一人の労働者が加盟する労組は経営者側は既に問題に直面しつつあると述べた。

同鉱山のスポークスマンは、操業は平常通りのままだと述べた。また、同鉱山の期間労働者も操業は通常通りだと語った。

これに対し、ある労組幹部は記者団に「会社の言うことを信じてはいけな。期間労働者二〇〇人で特殊技能を持った一、五五一人の組合員を代替するのは不可能だ」と述べた。

労組によると、パタチエ港のモリブデン工場はストの影響で操業停止となっている。また、鉱山のコンセントレート工場でも事故が発生したという。

(二面へ続く)

# アルミスクラップ相場 活え置ききり五円上げを予測

メーカーの在庫は潤沢だが、輸入塊手当てなどで

(二面より続く)

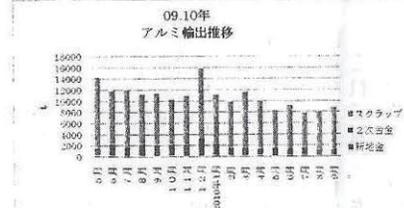
## ◆新設住宅着工戸数

国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比〇%増の七万一、九九八戸数であった(前年同期二・四%増)。

## ◆貿易指標

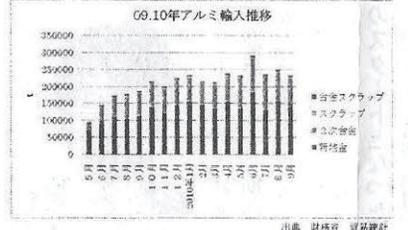
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比一六・八%減の一四九七、二次合金は同九・六%増の九七八七、スクラップは同九・五%増の七、五九四七。

	7月	8月	9月
輸出			
新地金	236 t	179 t	149 t
前月比	+7.6%	-20.1%	-16.5%
二次合金	1194 t	892 t	978 t
前月比	+8%	-25.3%	+9.6%
スクラップ	6400 t	6938 t	7594 t
前月比	-13.3%	+8.4%	+9.5%
輸出推移			



輸入は新地金が前月比一〇・四%減の一四万〇、四三八七、二次合金が二%減の八万六、〇九六七、アルミスクラップは五・八%増の七〇五七、二次合金原料としての需要が多い、合金スクラップは三・四%増の六、五七八七。

	7月	8月	9月
輸入			
新地金	13万2410 t	15万6067 t	14万438 t
前月比	-25.4%	-18.3%	-10.4%
二次合金	9万7860 t	8万7875 t	8万6096 t
前月比	-1.1%	-10.3%	-2%
スクラップ	632 t	666 t	706 t
前月比	-47.2%	+5.4%	+8.8%
合金スクラップ	5610 t	6369 t	6578 t
前月比	-26.4%	+15.4%	+3.4%
輸入推移			

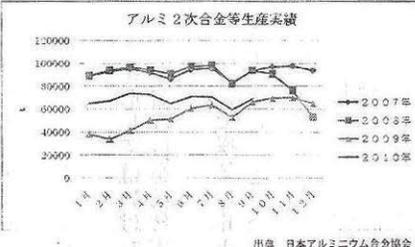
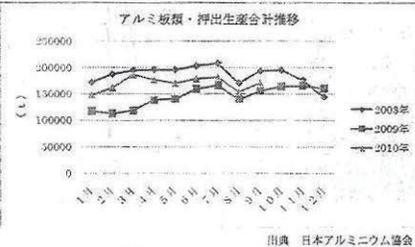


## 【九月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比一・四%増の一七七一、〇六三七(前年同期一二%増)。

日本アルミニウム協会発表のアルミニウム

△二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比一五・四%増の六万八、六七二七であった(前年同期一五・九%増)。



## 【見通し】

九月は国内自動車生産台数が前月比三三・九%増とエコカー補助金特需を持つてしても前年同期(四五・二%増)から伸び率が悪化、それにともなつて二次合金生産も一五・四%増(前年同期は二五・九%増)とこちらも伸び率が大幅に悪化した。また十月の国内自動車販売が一九万三、二五八台で前月比三七・四%減と大幅に悪化、今後が危惧される。圧延・押出品生産数はこちらも伸び悩み。新設住宅着工数も七万二千戸台で前月と変わらずとなった。

アルミ輸出入統計も国内指標の悪化に伴い輸出増・輸入減の流れになった。

原料需給は十月に引き続き国内自動車販売不振や輸入塊手当てから、現在メーカー在庫は潤沢、年内は目新しい政策もない中、エコカー補助金切れや円高などマイナス要因が多い。かといつてスクラップ発生が多いわけでもなく当用買いが続く低位安定。

LME価格については米FOMCの金融緩和策によるドル安期待や、本年が中国一五五カ年達成年に当たり、環境目標達成のためのアルミ精錬所閉鎖に伴う需給悪化を背景としたテクニカル買いもあり、二、四〇〇〜二、五〇〇ドル台を予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては、十月の自動車販売の大幅悪化する需給に改善は見られず、LMEアルミの上昇に伴い値を上げ、十月後半価格に比べ据え置きからプラス五円を予測している。